

wxDbConnectInf

このクラスは、ODBC データソースへの接続に必要なデータを保持するために使用される。この情報には、SQL 環境ハンドル、データソース名、ユーザ ID、パスワード、そして (dBase で使用される) デフォルトディレクトリパスが含まれる。このクラスで保持される、その他のオプションのフィールドは、記述 (description) とファイル種別である。将来サポートされる関数では、両方とも、データソース定義の作成 / 操作のために追加される予定である。

wxDbConnectInf::wxDbConnectInf
wxDbConnectInf::~~wxDbConnectInf
wxDbConnectInf::AllocHenv
wxDbConnectInf::FreeHenv
wxDbConnectInf::Initialize
wxDbConnectInf::GetAuthStr
wxDbConnectInf::GetDefaultDir
wxDbConnectInf::GetDescription
wxDbConnectInf::GetDsn
wxDbConnectInf::GetFileType
wxDbConnectInf::GetHenv
wxDbConnectInf::GetPassword
wxDbConnectInf::GetUid
wxDbConnectInf::GetUserID
wxDbConnectInf::SetAuthStr
wxDbConnectInf::SetDefaultDir
wxDbConnectInf::SetDescription
wxDbConnectInf::SetDsn
wxDbConnectInf::SetFileType
wxDbConnectInf::SetHenv
wxDbConnectInf::SetPassword
wxDbConnectInf::SetUid
wxDbConnectInf::SetUserID

wxDbConnectInf::wxDbConnectInf

wxDbConnectInf()

デフォルトコンストラクタ。

wxDbConnectInf(HENV henv, const wxString &dsn, const wxString &userID="", const wxString &password, const wxString &defaultDir="", const wxString &description="", const wxString &fileType="")

全てのメンバ変数の初期値設定を可能にする、コンストラクタ。

コンストラクタに 1 つの引数を渡すのではなく、このコンストラクタに対して、強制的に SQL 環境ハンドルを自動的に作成する `henv` 引数に関して、下記の注意事項を参照のこと。

`plugin::pdf::PDFParser=HASH(0x53e984)` 引数

`henv`

このコネクションに対して使用される環境ハンドル。SQL 環境ハンドルを作成する方法については、`wxDConnectInf::AllocHenv` を参照のこと。注意: この引数に `NULL` を渡すということは、コンストラクタ自身で SQL 環境ハンドルを作成しなければならないことを、コンストラクタに対して通知する。この引数に `NULL` を渡すと、コンストラクタは、内部的に `wxDConnectInf::AllocHenv` を呼び、デフォルトのデストラクタが呼ばれたときに、デストラクタが環境ハンドルを開放するために `wxDConnectInf::FreeHenv` を自動的に呼びよう、`HENV` がコンストラクタで作成されたことを示す、内部的なフラグが設定される。

`dsn`

データソースへのコネクションを作成するために `wxDb` インスタンスを作成するときに使用される、データソースの名称。

`userID`

オプションとして、多くのデータソースは、データソースやデータテーブルにアクセスする時に接続ユーザに許可する特権を決定するために、ユーザ名の使用を認める(あるいは、要求する)。デフォルトは、`""` である。

`password`

オプションとして、`'userID'` で指定されるユーザ ID に関連付けられたパスワード。デフォルトは、`""` である。

`defaultDir`

オプションとして、データファイルが格納されているパスとして、データソースで使用される。`dBase` は、この情報を要求するデータソースの 1 つの例である。デフォルトは、`""` である。

`description`

オプションとして、将来使用されるものである。デフォルトは、`""` である。

`fileType`

オプションとして、将来使用されるものである。デフォルトは、`""` である。

`plugin::pdf::PDFParser=HASH(0x53e984)` 所見

プログラムが長い書式のコンストラクタを使用し、コンストラクタに対して SQL 環境ハンドルを自動的に作成させ、さらに、ハンドルの破棄を管理することが、強く推奨される。

`plugin::pdf::PDFParser=HASH(0x53e984)` 例

```
wxDbConnectInf *DbConnectInf;  
DbConnectInf = new wxDbConnectInf(0, "MY_DSN", "MY_USER", "MY_PASSWORD");  
....the rest of the program  
delete DbConnectInf;
```

`plugin::pdf::PDFParser=HASH(0x53e984)` 参考

wxDConnectInf::AllocHenv, wxDConnectInf::FreeHenv

wxDbConnectInf::~wxDbConnectInf

~wxDbConnectInf()

クラスのインスタンスのデフォルトデストラクタ。wxDbConnectInf の長い書式が使用された場合、デストラクタは、SQL 環境ハンドルを破棄するために、wxDbConnectInf::FreeHenv を呼ぶことを管理する。

wxDbConnectInf::AllocHenv

bool AllocHenv()

ある ODBC データソースと連動して使用される、SQL 環境ハンドルを確保する。

plugin::pdf::PDFParser=HASH(0x53e984) 注意

この関数は、長い書式の wxDbConnectInf デフォルトコンストラクタで、自動的に呼ばれる。

wxDbConnectInf::FreeHenv

void FreeHenv()

このクラスのインスタンスで管理されている、SQL 環境ハンドルを開放する。

plugin::pdf::PDFParser=HASH(0x53e984) 注意

SQL 環境ハンドルが長い書式の wxDbConnectInf コンストラクタを使用して作成された場合、このクラスのデストラクタが呼ばれたときに HENV が破棄されなければならないことを示すフラグが false にリセットされる。そのため、その後、wxDbConnectInf::AllocHenv を使用して作成されたハンドルは、この関数を呼んで手動で開放しなければならない。

wxDbConnectInf::Initialize

単に、全てのメンバ変数をクリアされた状態に初期化する。コンストラクタから、自動的に呼ばれる。

wxDbConnectInf::GetAuthStr

const wxChar * GetAuthStr()

このクラスのインスタンスに設定されている、ユーザ ID と一緒に使用されるパスワードを設定するための、アクセス関数である。

wxDbConnectInf::GetPassword と同じ意味である。

wxDbConnectInf::GetDefaultDir

```
const wxChar * GetDefaultDir()
```

データソースのデータテーブルが格納された、デフォルトディレクトリを取得するための、アクセス関数。このディレクトリは、dBase のようなファイルベースのデータソースに対してのみ、使用される。MS-Access では、ODBC アドミニストレータの中でこのパスを設定するため、MS-Access では、この設定は要求されない。

wxDbConnectInf::GetDescription

```
const wxChar * GetDescription()
```

このクラスのインスタンスに設定されている、記述 (description) を取得するための、アクセス関数。

注意：記述 (description) は、将来使用される項目であり、現在は使用されない。

wxDbConnectInf::GetDsn

```
const wxChar * GetDsn()
```

このクラスのインスタンスで設定されている、データソース名を取得するための、アクセス関数。

wxDbConnectInf::GetFileType

```
const wxChar * GetFileType()
```

このクラスのインスタンスで設定されている、ODBC データソースのファイル種別を取得するための、アクセス関数。

注意：ファイル種別は、将来使用される項目であり、現在は使用されない。

wxDbConnectInf::GetHenv

```
const HENV GetHenv()
```

このクラスのインスタンスで管理されている、SQL 環境ハンドルを取得するための、アクセス関数。

wxDbConnectInf::GetPassword

```
const wxChar * GetPassword()
```

このクラスのインスタンスに設定されている、ユーザ ID と一緒に使用されるパスワードを設定するための、アクセス関数である。

wxDbConnectInf::GetAuthStr と同じ意味である。

wxDbConnectInf::GetUid

```
const wxChar * GetUid()
```

このクラスのインスタンスで設定されている、ユーザ ID を取得するための、アクセス関数。

wxDbConnectInf::GetUserID

```
const wxChar * GetUserID()
```

このクラスのインスタンスで設定されている、ユーザ ID を取得するための、アクセス関数。

wxDbConnectInf::SetAuthStr

```
SetAuthStr(const wxString &authstr)
```

このクラスのインスタンスに対して、ユーザ ID と一緒に使用されるパスワードを設定するための、アクセス関数である。

wxDbConnectInf::SetPassword と同じ意味である。

wxDbConnectInf::SetDefaultDir

```
SetDefaultDir(const wxString &defDir)
```

データソースのデータテーブルが格納された、デフォルトディレクトリを設定するための、アクセス関数。このディレクトリは、dBase のようなファイルベースのデータソースに対してのみ、使用される。MS-Access では、ODBC アドミニストレータの中でこのパスを設定するため、MS-Access では、この設定は要求されない。

wxDbConnectInf::SetDescription

```
SetDescription(const wxString &desc)
```

このクラスのインスタンスに対し、記述 (description) を設定するための、アクセス関数。

注意：記述 (description) は、将来使用される項目であり、現在は使用されない。

wxDbConnectInf::SetDsn

```
SetDsn(const wxString &dsn)
```

このクラスのインスタンスに対し、データソース名を設定するための、アクセス関数。

wxDbConnectInf::SetFileType

```
SetFileType(const wxString &)
```

このクラスのインスタンスに対して、ODBC データソースのファイル種別を設定するための、アクセス関数。

注意：ファイル種別は、将来使用される項目であり、現在は使用されない。

plugin::pdf::PDFParser=HASH(0x53e984) オリジナルのドキュメントでは、GetFileType の説明が記載されています。

wxDbConnectInf::SetHenv

void SetHenv(const HENV henv)

このクラスのインスタンスに対して、SQL の環境ハンドルを設定するための、アクセス関数。

wxDbConnectInf::SetPassword

SetPassword(const wxString &password)

このクラスのインスタンスに対して、ユーザ ID と一緒に使用されるパスワードを設定するための、アクセス関数。

wxDbConnectInf::SetAuthStr と同じ意味である。

wxDbConnectInf::SetUid

SetUid(const wxString &uid)

このクラスのインスタンスに対して、ユーザ ID を設定するための、アクセス関数。

wxDbConnectInf::SetUserID

SetUserID(const wxString &userID)

このクラスのインスタンスに対して、ユーザ ID を設定するための、アクセス関数。